

「体罰、ハラスメント」の根絶宣言

言うまでもなく、バスケットボールの指導においては、学校、指導者、生徒、保護者の間での十分な説明と相互の理解の下で、健康状態、心身の発達状況、技能の習熟度、活動を行う場や時間、安全確保等を総合的に考えた科学的、合理的な内容、方法により行われることが必要であります。

しかしながら、昨今、北海道においてもバスケットボールの指導の中に、指導者による体罰、ハラスメント等の事案が判明し、社会的に問題になっている現状があります。

スポーツの指導において、このような行為は全く必要なく、絶対に許されないことであり、人間の尊厳を否定するものであるということを、改めて、指導者、保護者を含め、子ども達に関わる全ての人たちが強く認識する必要があります。

特に、指導者は「根性」「気合い」などの精神論をやたら強調する指導、罰として与える練習や恫喝的な叱責、連帯責任や見せしめの発想はやめ、時代は変わっている、価値観は変わっているということを認識し、正しい教育観をもつことが求められています。

「私たちは、体罰、ハラスメントをしません。」

「私たちは、体罰、ハラスメントをさせません。」

「私たちは、体罰、ハラスメントを見過ごしません。」

北海道ジュニアバスケットボール連盟は、バスケットボールに関わる全ての人たちの力を結集して、「体罰、ハラスメント」の根絶を宣言します。

平成28年5月14日

北海道ジュニアバスケットボール連盟